

新規青年就農者を積極誘致と農業委員による 担い手確保を拡大 (奈良県・高取町農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

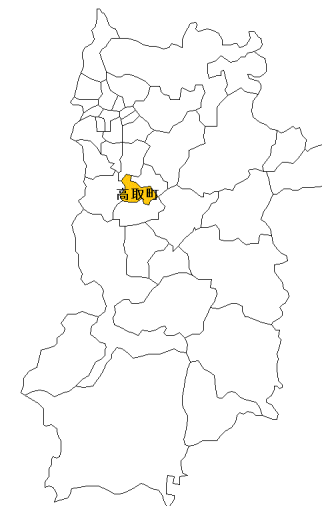
新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

(特徴・状況) 高取町の農地面積は403haで、稲作による水田農業が盛んであるとともに、畑ではトマトやナス。近年イチゴ栽培も増えてきている。

(課題) 大多数の農家がサラリーマンとの兼業農家であり、一人あたりの作付け面積も少なく、農地を維持する程度にとどまっている。狭小で不整形の田が多く、米の価格低下や鳥獣被害を受け、耕作意欲は全体的に低下している。他市町村と同じく、後継者不足、農業従事者の高齢化が課題となっており、耕作放棄地の増加が懸念される。



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

- 担い手不足解消のため、農業委員会では個々の地域内における耕作者を捜したり、遠方の農地所有者との折衝など意見調整をしたのち納得できる方法(小作、利用権、中間管理機構、売買)を探る等解決策を講じている。
- 町としては新規青年就農者を積極的に受け入れる方針(町単独での追加補助金制度あり)のため、農業委員も作物により事前の準備型受け入れも行っている。
- 遊休状態となった農地を小学生の農業体験の圃場として選定し、子どもたちと地域農業をつなぐ指導役として活動している。

3 活動(取組と工夫)の結果

- 地域をあげての取り組みにより耕作放棄地拡大にブレーキをかけている。
- 新規青年就農者が収穫した野菜、果物はふるさと納税で好評を得ている。